

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100213		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家千歳(1階 コスモス)		
所在地	千歳市北陽5丁目4-8		
自己評価作成日	令和4年2月5日	評価結果市町村受理日	令和4年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyCd=0191100213-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設して2年を迎えました。開設後の翌月より「新型コロナウイルス感染症」が出現したことで、感染対策をとりながら事業所の運営を進めております。職員の入れ代わりもありますが、事業所の理念は変えずに「ありがとう」～人生の主演はあなたです。の思いを、継続して職員は、入居者様と向き合っております。
 ・感染予防に努めながらの事業所運営の為、グループホームで目指す、社会性の地域住民との関わりができない現状でありますので、職員は、室内でのレクリエーションに力を入れて、入居者様に喜んで頂けるように、取り組んでおります。
 ・ベテラン職員から、若年層で経験値の浅い職員もおりますので、認知症高齢者の方と接する上での、注意点での「高齢者虐待防止の身体拘束廃止」に向けた取り組みにも、研修会を通して力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあさひの家千歳」はバス停から近い、静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。近隣にはドラッグストアやファッションセンターなどがあり買い物にも便利である。令和2年1月の開設後に新型コロナウイルス感染症の流行となり、地域住民との交流や外出が難しい状況である。町内会行事や地域の情報を収集し、近くの保育園や幼稚園の子供との交流など地域住民との関係づくりを検討している。運営推進会議では事業所の取り組みを詳細な議事録の送付で現状を伝えており、今後は書面で意見が得られるよう考えている。事業所内では可能な限り利用者が安心して楽しく過ごせる環境づくりを真摯な姿勢で取り組んでいる。感染症流行の状況を見極めて周囲や公園を散歩し、外気浴も行っている。毎月の「調理レク」でおやつ作りを楽しんだり、事業所内で夏祭りを行い、好みの屋台料理を選んでお祭り気分を味わっている。法人のバックアップのもとに管理者は職員の資質向上への研修体制を重視し、年間計画に沿って確実に実行し、報告書を提出することで学びが深められている。感染状況を見極めて家族の面会や、看取り時には本人と過ごせるように配慮している。管理者と職員は理念に沿って利用者を尊重した温もりのある暮らしを整え、感染症の収束後に向けて出来ることを考え熱心に進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議や職員が集まる事がある時にホーム理念を唱和して意識付けをしている。	事業所理念「『ありがとう』～人生の主役はあなたです～」をもとに、地域の中で利用者の暮らしに寄り添う内容を掲げている。会議などの際に理念に沿って対応をしているかを話し合い、職員は意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルス感染症のため控えています が今後収束した時は積極的に地域と交流していきたい。	町内会長に運営推進会議の議事録を届けたり、感染症流行の収束後には協力についての話も得ている。近隣とは挨拶を交わす程度なので、子供たちとの触れ合いや地域催しの情報を得ながら住民との関係を広げたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナウイルス感染症のため積極的な活動は出来ないが町内会長に新聞を届けホームの活動を知ってもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルス感染症のため運営推進会議にご家族が出席していただけないが会議の資料と議事録をご家族や地域に送付している。	法人役員の参加を得て2か月ごとに、取り組みの報告を中心に会議を開催している。行事、研修、感染症、身体拘束廃止委員会、避難訓練などの議題を報告し、質疑応答などの詳細な議事録と、研修に使用した資料も構成員に送付している。	感染症流行のため、会議への参加が難しい地域の構成員や全家族からも書面で意見収集を行い、会議に反映できるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料や議事録を送付、または事故の報告書を提出して協力関係を築いている。	感染症対策で市からワクチンや抗体検査キットが配送されてくる。感染症の対応で管理者は行政の各担当者と連絡を密に行い連携している。介護保険制度の利用で、おむつサービスなどの申請を紹介し費用軽減を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については3ヶ月に一度、「身体拘束廃止委員会」を開催して、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けて、委員会の内容を全職員が把握している。年2回の研修では、利用者がどう感じるか疑似体験も入れて学び、職員は拘束の辛さなどを報告書にして理解を深めている。身体拘束の対象となる具体的な行為も確認し、尊重に欠ける言葉がけや対応がないよう常に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても研修の機会を設けている。今年度は介護施設におけるハラスメントについて、権利擁護について、身体拘束がもたらす多くの弊害を研修した。また職員自ら1時間30分何もせず座り拘束を体験した。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人の尊厳を保ち制度への理解を活用するため内部研修の機会を設けている。本年は11月に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に書類をお渡しし内容を確認して頂いた上で当日再度細かく説明をしている。説明の間で都度、不安や疑問点を尋ね十分に話し合い、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やラインまた面会時に近況報告の際に意見を頂戴している。頂いた意見に関しては速やかに検討し改善対応している。	感染症流行の状況を見極め、短時間の予約制で飛沫防止ビニールシート越しに玄関内で面会を行っている。個別に暮らしを伝える便りを送っているが回数増を考え、また些細な意見も共有できるように家族アンケートの実施も検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞きやすい環境づくりをしている。職員と個人面談も実施しホームで解決できる内容は役職者で速やかに話し合い職員の意見を反映できるように努めている。	ユニット会議では業務改善委員会を中心に意見交換を行い、現場の意向を活かしながら見直している。職員の意向も含めて年間の研修計画を作成し実施している。管理者は担当制など意欲的に業務ができるよう、現場で働き易いように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と面談などを行い良く意見を聞いてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得制度もあり対象者には、随時声をかけてくれる。研修を受ける機会も確保してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今はコロナウイルス感染症のため行えないがZoom等での勉強会や医療連携の会などの勉強会に参加させてくれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるように不安やニーズを充分に聞き、センター方式等をご家族に記入してもらい信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に利用者様、家族の方の意見を十分に聞き不安を取り除く努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め必要なサービス、医療機関や他の専門機関等の意見も参考にし支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性や生活歴を大切にし、出来ない事のサポートし、また会話をしながら信頼関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染症の関係で今はなかなかご家族と会う事ができないが利用者が安心して生活出来るよう近況を報告し、時には家族の協力を得てご本人をサポートできる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状はコロナウイルス感染症のため外出制限しているが基本的に外出、外泊は自由にしている。また通常はホームへ来られることもできるため関係が継続できる。	知人が手紙を手渡しに来訪したこともある。手紙や電話のやり取りで馴染みの関係が継続できるように考えている。出身地の名物を、おやつレクに取り入れたり、趣味の音楽や生け花などが活かせるように場面を作り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用様同士が仲良く会話やレクなどを行えるように職員が間に入り支援をしている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じ相談や支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人やご家族に聞き取り希望や意向の把握しケアに役立てケアプラン作成をする時に役立っている。	会話や普段の様子などから意向を把握してケアにつなげている。趣味、嗜好、暮らしの習慣などはライフヒストリーに記載しているが、変化などの加筆が情報として少ないように見受けられる。	課題分析のアセスメント表を更新しているので、項目欄の工夫で職員間での情報を追記し、利用者の今の思いを記録で共有できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にセンター方式の生活歴を記入してもらいまた以前の施設等の職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有しサービス記録に記入する等して現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い小さな変化にも職員間で報告、連絡、相談を行い担当者がまとめ3か月に1度(必要な時は随時)担当者会議を行い、その時々現状に応じた介護計画を作成している。	全利用者の状態を毎月確認し、利用者担当職員が3か月ごとにモニタリング評価を行い、会議で確認後に計画作成担当者が本人、家族の意向を入れて介護計画を作成している。記録では実施内容をチェックし、変化なども次回につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に内容の実践、取り組み、気づき等を記入し職員同士で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり一人ひとりに合ったサービスの提供を心がけ既存のサービスに捉われない、柔軟性をもって個々に合ったサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルス感染症の関係で活用はできないが地域包括センター等と連絡を取り合っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には全員が協力医療機関などの往診を受けているが専門医の受診など入居時前からのかかりつけ医受診が継続している場合もある為、ご家族と本人の意向も確認して対応している。協力医療機関には受診の結果を随時報告している。	協力医療機関の内科医による訪問診療を2か月ごとに受け、看取り時には対応できる医療機関に変更している。専門的な他科受診は、かかりつけ医の継続で健康情報をもとに連携している。処方薬は、訪問薬剤管理指導の管理で行われている。	

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の訪問看護での報告、相談をして体調不良等不安な事があれば電話連絡し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員と連絡を取り情報交換を行っている。入院した際は早期退院に向けて協力体制を築いている。病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にリビングウィルの書面により確認している。その後、状態が変化した際は再度意向を確認し本人、家族とともに後悔しないような支援ができるよう配慮している	利用開始時に重度化や看取り指針を文書で説明し、最終に迎える意向の確認もしている。看取りを希望する場合は同意書を交わし、今回も看取りを行い、職員は家族が居室などで最後まで本人と過ごせるように、温かい姿勢で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがある。その後、急変時の緊急ファイルを準備しフェイスシート、保険証のコピー、薬情報をファイリングしている。また緊急連絡網を活用し指示を早急に仰ぐことができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の消防訓練は年2回行っている。	火災想定で日中を想定した自主訓練を行い、3月中に夜間を想定し、誘導、避難の実施を予定している。自然災害のマニュアルは本部と連携して作成中である。災害時の地域住民との協力体制については町内会長と話し合う予定である。	自然災害時の各マニュアルをもとに勉強会などで共有し、訓練につなげるよう期待したい。地域との連携では住民協力の部分を明確にし、感染症収束後の訓練に参加が得られるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては何度も研修を行っている。また毎月の目標などで職員に呼びかけている。	接遇や認知症対応研修で言葉かけを学び、利用者を尊重した対応になっているかを確認している。個人情報やプライバシーは適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望や想いを発言できるよう働きかけ自己決定が出来るように努めている。例えば服を着替える時は声かけをして自己決定をしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人様の意思に沿い支援している。入浴は順番が決まっているので希望に沿えない事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時などは自己決定してもらって好きな服を着ている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事等の時は楽しく食事ができるよう支援している。普段の献立もなるべく同じものが出ないように献立を考えている。食事の盛り付けや片付けを一緒にして入居者の力を引き出すようにしている。	職員は野菜を多くし栄養面も考慮して食事を作っている。毎月調理レクを行い、味噌づくりに男性利用者も参加し、美味しいみそ汁は好評である。だんご汁、プリンなど職員と一緒に作り、食べる楽しみを工夫して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に摂取した食事量、水分量を記録している。食事や水分量の声かけや食事介助なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、各食事の後の口腔ケア、入床時の義歯をはずし消毒などのケアを行っている。また自分で磨けない利用者には職員が口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄をしてもらえるように時間を決めてトイレ誘導の声かけを行っている。	全員の排泄表をもとに夜間も可能な限り、トイレでの排泄を支援している。介助の場合もできる動作の声かけで自立面を維持している。半数以上の利用者が自力ででき、リハビリパンツやパッド使用で過ごすなど自立面が高い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は最終排便の把握をして個々に牛乳や食物繊維の多い飲食物の提供をしている。また協力医と相談して下剤などを処方してもらい予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は順番制となっているが本人と時間などを相談し、また拒否がある場合は次の日に入浴できるように配慮している。	ほぼ毎日入浴が可能な体制で、午前、午後の時間帯に意向を確認しながら週2回の入浴を支援している。個別にその都度湯を入れ替えて清潔にし、現在は全員が湯船に浸かり、職員と昔話をして気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば日中に臥床時間を設け休息ができるように支援している。入床時も本人の希望により休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方時の薬情報やお薬手帳などで薬を把握している。また服用時には必ず数を数えて漏れている薬がないかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴などを把握し、食事後の片付け、洗濯物干し、畳み等の手伝い等の役割や趣味の音楽鑑賞等の楽しみ、気分転換の支援を行っている		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染症流行の為、実施できていないが今後はご家族や地域住民の方々と協力しながら外出できるよう支援していきたい。また通院時は家族と一緒に出かけることができる。	感染症流行の状況を見極めながら、周囲や公園を散歩したり、プランターの野菜や植木鉢の水やりなどをして外気に触れている。駐車場にベンチを置いておやつを楽しむこともある。運動量は毎日のラジオ体操や下肢筋力運動、ゲームなどで気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針で金銭管理は行っておらずご家族対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また個人で携帯電話を使用して家族と連絡をとっている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、室温、光などを調節している。リビングには季節感を取り入れた物を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間は清潔に保ち、居間は食卓テーブルと別にソファ席を配置し団欒が楽しめるゆったりとした造りになっている。行事を楽しみ、クリスマスにはプレゼントがあるなど家庭的な温もりのある場となっている。作品づくりに利用者も参加し、季節の装飾品がきれいに飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士でリビングで過ごしたりソファでテレビを観たりしている。独りでテレビを見たい方には居室に環境を整える配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた家具、寝具等を持って来てもらい安心して生活できるよう支援している。	居室内には普段使用していた馴染みの家具類や小物類が持ち込まれている。仏壇、テレビ、ベッド、ラジオ、観葉植物、家族の写真などを飾り、馴染みのものに囲まれて居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレ、洗面所が分かりやすいように目印を付け工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100213		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家千歳(2階 ライラック)		
所在地	千歳市北陽5丁目4-8		
自己評価作成日	令和4年2月5日	評価結果市町村受理日	令和4年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0191100213-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設して2年を迎えました。開設後の翌月より「新型コロナウイルス感染症」が出現したことで、感染対策をとりながら事業所の運営を進めております。職員の入れ代わりもありますが、事業所の理念は変わらずに「ありがとう」～人生の主演はあなたです。の思いを、継続して職員は、入居者様と向き合っております。
 ・感染予防に努めながらの事業所運営の為、グループホームで目指す、社会性の地域住民との関わりができない現状でありますので、職員は、室内でのレクリエーションに力を入れて、入居者様に喜んで頂けるように、取り組んでおります。
 ・ベテラン職員から、若年層で経験値の浅い職員もおりますので、認知症高齢者の方と接する上での、注意点での「高齢者虐待防止の身体拘束廃止」に向けた取り組みにも、研修会を通して力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員がミーティング等で運営理念とホーム理念を斉唱し意識付けを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流は行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症対策の為、実施できていないが今後ホームだより等で地域の人に発信できればと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症流行の為、書面にて事業所の状況や利用者の様子を写真で報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や事故の報告等、細目に連絡を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については3ヶ月に一度、「身体拘束廃止委員会」を開催して、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても研修の機会を設けている。何かあった際は報告し防止に努めている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人(利用者)の尊厳を保ち制度への理解を活用するため内部研修の機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に書類をお渡しし内容を確認して頂いた上で当日再度細かく説明をしている。説明の間で都度、不安や疑問点を尋ね十分に話し合い、理解と納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時に近況報告の際に意見を頂戴している。頂いた意見に関しては速やかに検討し改善対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞きやすい環境づくりをしている。職員と個人面談も実施しホームで解決できる内容は役職者で速やかに話し合い職員の意見を反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を良く聞いてくれている。職場環境が良くなるようにつけてあげてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は少なかったが内部での研修を受ける機会の確保をして頂いた。また資格取得制度もあり対象者には、随時声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症流行にて地域資源の活用は行えていない感染症流行の為、実施できていないが今後は他事業所や多職種と交流ができるようネットワークづくりをしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、安心した生活が送れるように不安やニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者を始めるにあたり利用者様、家族の方の意見を十分に聞きニーズを引き出す努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め何が必要か、医療機関、他の専門機関等の意見も参考にし支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分で出来る事は可能な限り本人にして頂き出来ない事はサポートし共に寄り添って暮らして行ける信頼関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活出来るよう家族近況を報告を行い時には家族の協力を得てご本人をサポートできる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状はコロナウイルスのため外出制限しているが基本的に外出、外泊は自由に行っている。またホームへ来られることもできるため関係が継続できる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い支え合えるように努めている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後でも必要に応じ相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し意向に沿えるように努めている。たまに困難な場合は家族に支援をお願いして本人本位で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴や今までの暮らし方を把握して生活環境を整え安心し、その方らしい生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有しサービス記録に記入する等して現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い小さな変化にも職員間で報告、連絡、相談を行いチームケアとしてケアカンファレンスを行い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のサービス記録に内容の実践、取り組み、気づき等を記入し職員同士で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり一人ひとりに合ったサービスの提供を心がけマニュアルに束縛されず柔軟性をもって個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症流行にて地域資源の活用は行っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には全員が協力医療機関などの往診を受けているが専門医の受診など入居時前からのかかりつけ医受診が継続している場合もある為、ご家族と本人の意向も確認して対応している。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の訪問看護での報告、相談、体調不良等不安な事があれば電話連絡し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員と連絡を取り情報交換を行っている。入院した際は早期退院に向けて協力体制を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に意向を確認している。その後、状態が変化した際は再度意向を確認し本人、家族ともに悔しくないような支援ができるよう配慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがある。その後、急変時のファイルを準備しフェイスシート、保険証のコピー、薬情報をファイリングする事に対応時に焦らないよう準備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定で避難訓練を行ったが地震や水害は行っていない。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話させて頂いているとの精神で一人一人の人格を尊重し、その方の性格等把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせず希望や想いを発言できるよう働きかけ自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくご本人様の意思に沿い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きなものを身に付けて頂いている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物を提供し季節を感じてもらい美味しく楽しく食事ができるよう支援している。また祝い事での献立も工夫している。できる限り一緒に食事の準備や片付けをし入居者の力を引き出すようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みや嫌いな食べ物、飲み物を把握できるように記録表に記入しスタッフで共有している。また1日に摂取した食事量、水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしっかりと行っている。就寝前には義歯を外して頂き義歯ケースでポリドント洗浄をしている。口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は個々の排泄パターンを把握するために情報を共有している。介助の必要な利用者には本人のサインを受けた上での支援、トイレ誘導を行っている。排泄を失敗した時には自尊心を傷つけることなく羞恥心やプライバシーに配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄日を記録し、できるだけ自然排便が出来るよう取り組んでいるが便秘傾向にある方は主治医に相談し下剤を使用している。食事は野菜中心とし毎朝は乳製品を提供する等工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は固定だが時間帯は利用者と相談の上、決定している。入浴を好まない方には言葉掛けの工夫をしたり「入りたい」と心が動いた時に直ぐに入れるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は個々の睡眠パターンを情報共有によって把握している。日中1人になりたい時や昼寝がしたい時は自由に休める環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬リストにて服用している。薬を確認し不明な点は薬局に確認を取り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴などを把握しながら食事後の片付け、洗濯物干し、畳み等のお手伝いや趣味の読書などの役割りや楽しみ、気分転換の支援を行っている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染流行の為、実施できていないが今後はご家族や地域住民の方々と協力しながら外出できるよう支援していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針で金銭管理は行っておらずご家族対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人やご家族の希望があれば電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、室温、光などを調節している。リビングには季節感を取り入れた物を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士でリビングで過ごしたり独りで静かにテレビを見たい方には環境を整える配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ昔から使い慣れた家具、寝具等を持って来てもらい居心地よく安心して生活できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレ、洗面所が分かりやすいように目印を付け工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家千歳

作成日：令和 4年 3月 2日

市町村受理日：令和 4年 3月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・コロナ禍での運営推進会議において、ご家族や構成員の方々の意見が反映できていない。	・事業所の運営に際して、ご家族や構成員の意見を取り入れ、より活性化した事業所の運営に繋げる。	・勉強会のテーマに沿って事前にご家族や構成員のご意見を確認し、頂いたご意見を基に勉強会に繋げて職員と共に考える。 ・運営に関するご意見のアンケート用紙を配布してご家族から頂いたご意見を参考にして事業所の円滑な運営に繋げる。	3か月
2	23	・入居時以降の入居者様の、思いや意向の変化の把握が十分にできていない。	・課題分析シートの活用に努める。入居者様の変化が段階を追って分かるように、記して情報共有を行う。	・入居前、入居後の、思いや意向の変化がわかる様に、課題分析シートを活用する。	3か月
3	35	・開設当初より、コロナの問題があり、災害対策について、コロナ禍でもある為、地域住民との関わりや、交流が持てていない為、実際に、災害など起きた場合に近隣住民の方々の協力体制を得ることができない。	・緊急時の災害に備えて、近隣住民の方の協力が得られるよう、信頼関係が築ける様、関わりの機会を持ち、緊急時の協力体制に繋げる。	・町内会長の所へ、再度挨拶に出向き、回覧板を事業所にも回して頂き、地域の取り組みや、活動状況を把握し、コロナ禍の状況をみながら、地域住民との関わりを作る。	3か月
4	49	・コロナ禍の為、外出支援ができていない状況である。 ・室内での活動が主体となり、自然や季節感を味わって頂けていない。	・感染対策の為、人との接触を避ける為、車窓ドライブなど企画をあげる。	・雪が解けて、寒暖の差の状況を確認しながら、個別単位で、数日繰り返し、車窓ドライブを企画して、外気に触れ、季節感を感じて頂けるように、努める。	3か月
5	51	・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援体制の確立がされていない。	・古くからの馴染みの関係が途切れず、記憶から遠ざからない様に支援する。	・コロナ禍で、面会体制も規制がある為、馴染みの関係が途切れないように、手紙や、絵手紙などを利用して、これまでの関係が途切れない様に、関係作りを努める。	3か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。